



Japan Foundation for
Regional Art-Activities

地域創造レター

4月号—No.311

2021.3.25

(毎月1回25日発行)

News Letter to Arts Crew

【鶯色(とびいろ)】鶯の羽の色のよう茶色。

「ビーヒョロヒョロ」でおなじみの鶯に由来する色。江戸時代を代表する茶色だが、徐々に色調が変わり、今では同じ色名でもかなり赤みがかった茶色になっている。

●目次 / contents

今月のニュース..... 2

ステージラボ オンラインセッション報告

財団からのお知らせ..... 4

「地域創造フェスティバル2021」参加者募集 / 「公共ホール求人情報」
「公共ホール研修会 / シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法 / 「特別寄稿 ビューポイント view point」掲載のお知らせ / 令和元(2019)・2
(2020)年度「市町村立美術館活性化事業」報告

今月の情報..... 6

地域通信 / オンラインを活用した取り組み / アーツセンター情報

今月のレポート..... 12

岩手県宮古市 宮古市民文化会館プロデュース公演『岬のマヨイガ』

発行元：一般財団法人地域創造
〒107-0052 東京都港区赤坂2-9-11
オリックス赤坂2丁目ビル 9F
Tel. 03-5573-4066 Fax. 03-5573-4060
URL: <https://www.jafra.or.jp/>

ステージラボを初めてオンラインで開催

ステージラボ オンラインセッション 報告

2021年2月24日～26日



写真

左上：シンポジウム「地域に今なゼアートが必要か」第1部「地域とともに歩むコーディネーター」

右上：ワークショッププログラム配信の様子(右：白神ももこさん、左：大園康司さん)

左下：ワークショッププログラム③「動いてみる、言葉にしてみる」(佐久間新さんのパフォーマンス)

右下：ワークショッププログラム④「とにかく、なんとかする」発表の様子

*文化的コモンズ

地域社会を構成する誰もが文化的営みに参加できる公共圏のイメージ。平成24(2012)・25(2013)年度調査研究「災後における地域の公立文化施設の役割に関する調査研究報告書—文化的コモンズの形成に向けて」および平成26(2014)・27(2015)年度調査研究「地域における文化・芸術活動を担う人材の育成等に関する調査研究報告書—文化的コモンズが、新時代の地域を創造する」において提唱された概念。

<https://www.jafra.or.jp/library/report/24-25/index.html>

<https://www.jafra.or.jp/library/report/26-27/index.html>

●ステージラボに関する問い合わせ
芸術環境部 児島・吉川・崎山
Tel. 03-5573-4183

昨年2月のステージラボいわきセッションから丸1年。新型コロナウイルス感染症の影響により初のオンラインセッションとなったステージラボが2月24日～26日に東京の地域創造会議室と全国を繋いで開催されました。1日目はシンポジウム(各部定員80人)、2日目・3日目は富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督の白神ももこさんをコーディネーターに迎えたワークショッププログラム(定員15人)で、全国各地からご参加いただき、高い関心をもって受け止めていただきました。その模様をレポートします。

●シンポジウムのテーマは2つの視点

シンポジウムでは、第1部「地域とともに歩むコーディネーター」、第2部「市民と向き合うアーティスト」という2つの視点をテーマとして取り上げました。オンラインのため、ファシリテーターと地域創造の津村卓プロデューサー、技術スタッフ、事務局だけが会議室に集合。パネリストはそれぞれの地域から参加しました。

第1部では吉本光宏さんがファシリテーターを務め、3人のパネリストが事例を紹介。最初に吉本さんがコーディネーターについての問題提起を行いました。

「東日本大震災を踏まえて地域創造が調査し

た結果、地域に命綱となるような文化的な繋がりが生まれていることがわかり、それを文化的コモンズ(*)と呼ぶことにした。そこで指摘されたのがコーディネーターの存在。問題は解決できなくても、生きにくさを緩和することに少しでも文化芸術が寄与できるよう「地域とアートを繋ぎ、地域の課題と向き合う」というその役割はますます重要になっている」

それを受けて、小中学校にアーティストを派遣する「横浜市芸術文化教育プラットフォーム事業」など意欲的な地域連携事業を展開するSTスポット横浜の小川智紀理事長が取り組みなどを紹介。「コーディネーターについてよく言われるのが『本業扱いしてくれない』『何と何を繋ぐ役目なのかわからない』『最終的な目標がよくわからない』ということ。教育文化、福祉文化という言葉があるように、社会の固有の領域を文化として捉え、それぞれを繋げる役割にこそ、コーディネーターの存在意義があるように思う」と示唆していました。

岡山文化連盟に新たな機能として加わった「おかやま文化芸術アソシエイツ」のプログラム・コーディネーターを務める大月ヒロ子さんは、既存のネットワークを生かして「ヒト・コト・場所」を組み合わせ、繋ぎ、掛け合わせるという多彩な

▼今月のニュース

地域創造からのニュースを毎月掲載します

活動を紹介します。また、プロジェクト・コーディネーターという肩書をもつ若林朋子さんが、「人と人を繋ぎ、相談を受けてそのときの最適解を形にする」という自身のコーディネーター像について話すなど、多角的な論点が提示されました。

第2部では、ファシリテーターとして豊かな経験をもつ吉野さつきさんが進行を務め、地域と連携した活動実績をもつ4人のアーティストとトークを展開。「劇場で純粹培養して作品をつくるのではなく、世間のいろいろなものと混濁させてつくことに興味がある」という遠田誠さん(ダンサー・振付家)、「地域に滞在し、ティーンエージャーと一緒に演劇をつくることが多い。地域に混ぜてもらおうという気持ちで取り組んでいる」という田上豊さん(劇作家・演出家、キラリ☆ふじみ芸術監督)に続き、コロナ禍でも音楽を発信できるよう自宅を演奏発信基地に改装したという田村緑さん(ピアニスト)が自宅からライブ演奏を披露。また、吉澤延隆さん(箏奏者)は「箏もリコーダーと同じ今を生きている楽器。当初はワークショップとコンサートを別ものとしてとらえていたが、今では演奏会でもお客さんに参加してもらおうことも採り入れている。要は人が大切」と話すなど、アーティストの思いにふれられる貴重な機会になりました。

●人となりが伝わったワークショッププログラム

今回のワークショッププログラムは、定員を超える20人が参加。技術スタッフがZoomについての事前研修を実施しました。また、事前課題として個人の視点で職場や会館の魅力を伝える動画(3分程度)を作成してもらい、1コマ目にそれを生きた自己紹介を行いました。スマートフォンを片手に同僚から館長まで仲間をリレー撮影した人、ロビーに設置された大好きな照明器具をアピールした人、会館の前庭でお客さんを迎えている自慢の植木を紹介した人、マスコットキャラクターと館内案内をした人など。リアルでの自己紹介よりもプライベート感が溢れ、意図せずして撮影者の人となり伝わる動画に受講生の距離が一気に縮まりました。

3コマ目は、コーディネーターの白神さん、サブコーディネーターの大園康司さん(ダンサー)と山本麦子さん(愛知県芸術劇場プロデューサー)と共に、オンラインでアーティストのライブパフォーマンスを鑑賞。んまつーポスは自らが宮崎市で運営する国際こども・せいねん劇場「透明体育館きらきら」から幼稚園児へのショーイングを兼ね、スポーツマンならではのキレのある群舞を披露。高齢の父親を呼吸をするようにゆっくりマッサージする佐久間新さんのパフォーマンス、パーキンソン病の方々ともワークショップをしている金沢のなかむらくるみさんと障がいのあるダンサーとの即興コラボと、好奇心を刺激させられるパフォーマンスが続きました。受講生は「言葉にしてみる」をテーマに、感想を川柳で書き、画面の向こうのアーティストに披露しました。

最後のゼミでは、「とにかく、なんとかする」と題し、4チームに分かれ、離れ離れのメンバーと協力して動画を作成。落語風の語りで各地の名産紹介をしたチーム、他己紹介をしりとりで繋いだチームなど、アイデア満載でした。

受講生は、「オンラインでも共同作業ができるんだなと思った」「オンラインだから遠方でも参加できた」「実際に会いたくなった」「動画をどうつくるかではなく、どうやって人を巻き込むかにトライできた。それは劇場・ホールの人を巻き込み方に繋がるといった」など、それぞれに手応えを感じていました。

白神さんは、「オンラインだったからホールで仕事をしながら仕事場から発信することができた。今まで取りこぼしていたものに焦点が当たった感じがした。Zoom画面に顔がずっと出ているので、責任が出てくるというか、事なかれで終われないワークになった。こういうホールなんだというより、こういう愛情をもっている人がいるホールなんだというのが伝わり、人として付き合える、人で繋がれる感じになったのが面白かった」と振り返っていました。

ステージラボの特徴である少人数・双方向・体験型・交流型をそのまま展開することはできませんが、オンラインならではの新たな出会いの場を創出できたのではないのでしょうか。

●ステージラボ オンラインセッションプログラム

【2日24日】

◎シンポジウム「地域に今なぜアートが必要か」

●第1部「地域とともに歩むコーディネーター」

【ファシリテーター】吉本光宏(株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事)

【パネリスト】大月ヒロ子(有限会社アイデア代表取締役/おかやま文化芸術アソシエイト プログラム・コーディネーター)、小川智紀(認定NPO法人STスポット横浜理事長)、若林朋子(プロジェクト・コーディネーター/立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科特任准教授)、津村卓(一般財団法人地域創造プロデューサー)

●第2部「市民と向き合うアーティスト」

【ファシリテーター】吉野さつき(アーツ・マネージャー/愛知大学文学部メディア芸術専攻教授)

【パネリスト】遠田誠(ダンサー/振付家/まことクラヴ主宰)、田上豊(劇作家/演出家/田上バル主宰/富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督)、田村緑(ピアニスト)、吉澤延隆(箏奏者)、津村卓

【2日25日】

◎ワークショッププログラム

【コーディネーター】白神ももこ(振付家・演出家・ダンサー/富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督/モモンガ・コンプレックス主宰)

【サブコーディネーター】大園康司(振付家・ダンサー・ワークショップデザイナー・舞台音響家/かえるP主宰)、山本麦子(愛知県芸術劇場 プロデューサー)

①「自分のことを紹介してみる」

【講師】白神ももこ、大園康司、山本麦子

②「相手のことを聴いてみる、話してみる」

【講師】白神ももこ、大園康司、山本麦子

【2日26日】

③「動いてみる、言葉にしてみる」

【講師】白神ももこ、大園康司、山本麦子、んまつーポス、佐久間新、なかむらくるみ

④「とにかく、なんとかする」

【講師】白神ももこ、大園康司、山本麦子

◎オンライン交流会(20:00～)

【アーカイブ箱】

https://www.jafra.or.jp/project/training/online_lab020/20/archive_box.html

●さっぽろ天神山アートスタジオ

『2020年度AIR(アーティスト・イン・レジデンス)プログラム』

●富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ『モガ溪谷～記憶はだいたい屋敷～(穴あき谷のおまつり編)』

●穂の国とよはし芸術劇場PLAT『まちと劇場の技技交換所』

●山口情報芸術センター[YCAM]『YCAMスポーツ・リサーチ』

財団からのお知らせ

●「地域創造フェスティバル2021」

[日程] 5月25日(火)、26日(水)
[会場] 東京芸術劇場(東京都豊島区西池袋1-8-1)
[料金] 無料

◎申し込み方法

当財団ホームページにある「地域創造フェスティバル」の各イベント申込フォームより、各事業の募集期間内にお申し込みください。

<https://www.jafra.or.jp/project/festival/01.html>



◎問い合わせ

芸術環境部 フェスティバル担当
Tel. 03-5573-4068
festival@jafra.or.jp

●「特別寄稿 ビューポイント view point」掲載について

地域創造ホームページ限定で、有識者やキーパーソンから文化芸術および公立文化施設等におけるチャレンジングな取り組みを寄稿していただくコーナー「特別寄稿 ビューポイント view point」。新たにピアニストの田村緑氏(3月12日更新)にご寄稿いただきました。

<https://www.jafra.or.jp/library/other/6902.html>



◎問い合わせ

芸術環境部 吉川
Tel. 03-5573-4068

●「地域創造フェスティバル2021」参加者募集

地域創造が取り組んでいるさまざまな事業を紹介し、地方公共団体や公共ホールが文化・芸術に関する事業を企画・実施する上で参考となる情報を提供することを目的に「地域創造フェスティバル2021」を東京芸術劇場で開催します。会場では、おんかつ支援登録アーティストによるプレゼンテーションや、おんかつコーディネーターによるセミナー、地域創造の事業を体験できるワークショップ&レクチャーなどにご参加いただけます。

※地域創造フェスティバル2021は事前申込制・先着順(一部抽選)です。お申し込み方法については左記要領および同封のチラシをご覧ください。今回は、例年に比べ定員数が少ないイベントもございますので、お早めにお申し込みください。

◎募集締切

・おんかつ支援プレゼンテーション・おんかつセミナー

2021年5月10日(月)

・地域創造事業 ワークショップ体験&レクチャー

2021年5月14日(金)

*各プログラムは定員になり次第、締め切らせていただきます(一部抽選)。

「地域創造フェスティバル2021」プログラム

*詳しいプログラム内容やタイムスケジュールはホームページをご覧ください。
*プレゼンテーション出演アーティストは変更になる場合がございます。

5月25日(火)	5月26日(水)
<p>●おんかつセミナー [ファシリテーター] 小澤櫻作、丹羽徹、山本若子、赤木舞、仕田佳経</p>	<p>●地域創造事業 ワークショップ体験&レクチャー [ファシリテーター] 吉澤延隆、川村薬山、岩崎正裕、有門正太郎、セレノグラフィカ</p>
<p>●おんかつ支援プレゼンテーション [ピアノ] 中川賢一 [弦楽器] 神谷未穂、北島佳奈、松本蘭(ヴァイオリン)/加藤文枝(チェロ) [管楽器] 森岡有裕子(フルート)/田中拓也(サクソフォン)/喜名雅(テューバ) [声楽] 乗松恵美(ソプラノ)/ヴィタリ・ユシュマノフ(バリトン) [打楽器] 塚越慎子(マリンバ)/野尻小矢佳(パーカッション&ボイス) [その他] 松尾俊介(クラシック・ギター)/江崎浩司(リコーダー)/福島青衣子(ハープ)/山本奈央(オカリナ) [アンサンブル] デュエットウカナエ&ゆかり(ピアノデュオ)/泉真由×松田弦(フルート&クラシックギター)/アーバンサクソフォンカルテット(サクソフォン四重奏)/Buzz Five(金管五重奏)</p>	<p>●おんかつ支援プレゼンテーション [ピアノ] 新居由佳梨、今野尚美、酒井有彩、中野翔太 [弦楽器] 坂口昌優、瀧村依里、早稲田桜子(ヴァイオリン)/奥田なな子(チェロ) [管楽器] 荒川洋(フルート)/田村真寛(サクソフォン)/加藤直明(トロンボーン) [声楽] 菅家奈津子(メゾ・ソプラノ)/糸賀修平、村上敏明(テノール) [打楽器] 大熊理津子、浜まゆみ(マリンバ) [アンサンブル] Dual KOTO×KOTO(箏デュオ)/ピアノトリオ・ミュゼ(ピアノトリオ)/Quatuor B(サクソフォン四重奏)/BLACK BOTTOM BRASS BAND(ブラスバンド)</p>

●「公共ホール求人情報」「公共ホール研修会/シンポジウム開催情報」掲載お申し込み方法

登録フォームにアクセスいただき、必要事項を直接ご入力ください。送信を行うには、フォーム最下部の投稿用認証キー欄へID、パスワードの入力が必要です。

※スパム対策のため、登録フォームURLおよびログインID、パスワードはホームページ上に記載していません。地域創造レターをご確認いただくか、地域創造までお問い合わせください。

- 1 求人情報登録フォーム、研修会/シンポジウム開催情報登録フォームへアクセス。
- 2 登録フォームに沿って、必要事項を入力してください。
- 3 フォームの最下部にある投稿用認証キー欄にID、パスワードを入力。
- 4 登録を完了すると自動で登録完了をお知らせするメールがお手元に届きます。
- 5 地域創造が内容を確認後、ホームページに情報を公開します。公開完了はメールでお知らせします。登録から情報公開までは2~3日程度お時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

※情報を修正する場合には、入力フォームの末尾にあるNo.入力欄に公開完了のメールに記載した登録No.をご入力の上、再度修正情報をご登録ください。セキュリティの都合上、すべての情報を再入力する必要があります。ご了承ください。

▼財団からのお知らせ

地域創造からのお知らせを毎月掲載します

●令和元(2019)・2(2020)年度「市町村立美術館活性化事業」報告

令和元・2年度市町村立美術館活性化事業では、「瀬戸蔵ミュージアム・瀬戸市美術館所蔵『瀬戸焼 受け継がれる千年の技と美』」を開催しました。新型コロナウイルス感染症拡大や緊急事態宣言により、当初予定していた4月開催から会期変更を余儀なくされましたが、9月の不二竹鼻町屋ギャラリー（岐阜県羽島市）での開催を皮切りに、四日市市文化会館（三重県四日市市）、東根市公益文化施設まなびあテラス（山形県東根市）、江別市セラミックアートセンター（北海道江別市）の4館を巡回しました。

陶器と磁器の両方を生産する窯業地・愛知県瀬戸市は、千年余りのやきものの歴史と伝統を有する地域であり、これまで日本のやきもの界をリードしてきました。本展では、瀬戸蔵ミュージアムと瀬戸市美術館にご協力をいただき、所蔵する1万点以上の中から選りすぐった作品を平安時代から現代まで歴史の流れに沿って紹介し、多彩な瀬戸焼の魅力を感じていただく内容となりました。

開催館の学芸員が出品作品の1点ずつに解説を付けるとともに、子ども向けにはワークシートも作成し、多くの方々に興味をもって展覧会を観てもらえるよう工夫しました。

コロナ禍ということもあり集客には苦戦した部分もありましたが、ワークシートの配布や、子どもに向けた広報を積極的に行ったところ、いつもの展覧会よりも家族での来館が多かったという開催館もありました。

また、この事業では展覧会の開催だけではな

く、ワークショップや講演会などの地域交流プログラムも実施しているのが特徴です。

四日市会場では、地元の地場産業である萬古焼の「木型萬古急須制作講座」を開催。地域の特色と展覧会を結び付けた企画を実施しました。羽島会場ではコロナ禍でも安心して参加してもらえるワークショップの形を模索し、オンラインで行うワークショップを開催（「タイルでフォトフレームづくり」）。明治時代に生産され大ヒットした水に浮かべて楽しむ陶製の玩具「浮き金魚」をつくるワークショップは東根会場と羽島会場で開催。子どもはもちろんのこと、大人にも人気のイベントになりました（「ノベルティ金魚をつくろう！」）。江別会場は、施設内に陶芸の工房エリアがあり、展覧会開催期間にも電動ロクロ体験や金継など制作ワークショップを多数実施。

各館が施設や地域の特色を生かしながら、さまざまな角度からやきものに親しむ企画を実施しました。

本事業は、地域創造の提示した企画案を、開催各館の学芸員が、貸出協力館アドバイザーの助言のもと、学芸会議等で議論を重ねながら具体化していきます。全国各地にある美術館の学芸員同士のネットワークづくりや、他館とノウハウを共有する機会に繋がる事業でもあります。

また、令和5(2023)年度開催の市町村立美術館活性化事業の参加館募集は、令和3(2021)年6月頃を目処に行う予定です。ぜひ、ご参加をご検討ください。



1. 展示室の様子(江別市セラミックアートセンター)
2. 「ノベルティ金魚をつくろう！」(東根市公益文化施設まなびあテラス)
3. 「木型萬古急須制作講座」(四日市市文化会館)
4. 「タイルでフォトフレームづくり」(不二竹鼻町屋ギャラリー)

●令和元・2年度市町村立美術館活性化事業

「瀬戸蔵ミュージアム・瀬戸市美術館所蔵『瀬戸焼 受け継がれる千年の技と美』」

[主催] 第20回共同巡回展実行委員会ほか

[特別協力] 瀬戸蔵ミュージアム、瀬戸市美術館

[アドバイザー] 武藤忠司(瀬戸蔵ミュージアム館長)、服部文孝(瀬戸市美術館館長)

[会場/会期]

●不二竹鼻町屋ギャラリー、羽島市歴史民俗資料館・羽島市映画資料館(岐阜県羽島市)/2020年9月5日～10月18日

●四日市市文化会館(三重県四日市市)/10月23日～12月6日

●東根市公益文化施設まなびあテラス(山形県東根市)/12月12日～2021年1月31日

●江別市セラミックアートセンター(北海道江別市)/2月7日～3月21日

[助成](一財)地域創造

●市町村立美術館活性化事業に関する問い合わせ

総務部 三田

Tel. 03-5573-4184

※お詫びと訂正

前号(3月号)の「今月のニュース」の写真キャプションに以下の誤りがございました。お詫びして訂正させていただきます。

P3 名取市文化会館【宮城県名取市】

中: Art for Kids @なとり わくわくパビリオン～和!っとおどろくたまてばこ/下: Art for Kids @なとり 小学校アウトリーチ事業 西沢澄博(オーボエ)・小池まどか(ヴァイオリン)・梅津樹子(チェンバロ)

↓

中: Art for Kids @なとり 小学校アウトリーチ事業 西沢澄博(オーボエ)・小池まどか(ヴァイオリン)・梅津樹子(チェンバロ)/下: Art for Kids @なとり わくわくパビリオン～和!っとおどろくたまてばこ

地域通信

●データの見方

情報は地域ブロック別に、開催地の北から順に掲載してあります。●で表示してあるのは開催地です。📍マークが付いている事業は地域創造の助成事業です。ラインの下は、事業運営主体、住所、電話番号、担当者名の順に記載してあります。色帯部分が事業名で、以下、内容を紹介しています。

●地域ブロック

[北海道・東北]北海道、青森、岩手、宮城、秋田、山形、福島

[関東]茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川

[北陸・中部]新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知

[近畿]三重、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山

[中国・四国]鳥取、島根、岡山、広島、山口、徳島、香川、愛媛、高知

[九州・沖縄]福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄

●情報提供先

ファックス、電話、e-mailでお願いします。
Fax. 03-5573-4060 Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp
地域創造情報担当

●2021年6月号情報締切

4月28日(水)

●2021年6月号掲載対象情報

2021年6月～8月に開催もしくは募集されるもの

●地域通信欄掲載情報について

新型コロナウイルス感染症の影響により、イベントが中止となる場合や、開催内容・日程等が一部変更となる場合がございます。最新の情報は主催者の発表情報をご確認ください。

北海道・東北

●札幌市

北海道立三岸好太郎美術館
〒060-0002 札幌市中央区北2条西15丁目
Tel. 011-644-8901 津田しおり
<http://www.dokyoji.pref.hokkaido.lg.jp/hk/mkb/index.htm>

エキゾティック・イメージー 上海から道化へ(後期)

今年度の第4期所蔵品展では、三岸好太郎が生来のロマンチックな詩情を呼び覚まし、道化をモチーフとした新たな画風へ飛躍するひとつのきっかけとなった1926年の中国旅行に焦点を当てる。エキゾティックな上海でのひとときを経て制作された、素描や油彩画などの道化シリーズを中心とする所蔵品からその変貌を見つめる。

[日程] 3月4日～4月11日

[会場] 北海道立三岸好太郎美術館

●北海道倶知安町

小川原脩記念美術館
〒044-0006 虻田郡倶知安町北6条東7-1
Tel. 0136-21-4141 沼田絵美
<https://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>

小川原脩展「《森の入口の白い樹》と北の動物たち」

倶知安町出身の画家・小川原脩の連作《森の入口の白い樹》6点のほか、1978～79年の2年間に多く描かれたキタキツネやフク

ロウなど、生活の中で身近な存在である“北の動物たち”をモチーフとした作品を中心に合わせて17点を紹介する。また、倶知安町にアトリエを構える画家・本庄隆志の代表作を紹介する「本庄隆志展イメージのカラーージュ」を同時開催。

[日程] 1月16日～4月18日

[会場] 小川原脩記念美術館



小川原脩《森の入口の白い樹》(1979年、油彩・キャンバス、72.7×50.0cm)

●青森県弘前市

弘前れんが倉庫美術館
〒036-8188 弘前市吉野町2-1
Tel. 0172-32-8950 大澤美菜
<https://www.hirosaki-moca.jp/exhibitions/>

りんご宇宙—

Apple Cycle / Cosmic Seed

2021年度は現代アーティストのケリス・ウィン・エヴァンスによる新作のコミッションワークを基点に、複数のアーティストの作品から成る展示を2期に分けて開催。本展では、りんごをめぐる豊かな思考と想像に着目し、国内外8名のアーティストによる多様な作品を展示する。りんごから宇宙規模に展開されるイメージーションのかたちを、絵画や映像、インスタレーションなどで紹介する。

[日程] 4月10日～8月29日

[会場] 弘前れんが倉庫美術館

●秋田県横手市

秋田県立近代美術館

〒013-0064 横手市赤坂字富ヶ沢62-46

Tel. 0182-33-8855 保泉充
http://www.pref.akita.jp/gakusyu/public_html/index.html

響きあう個性 福田豊四郎とゆかりの日本画家たち

秋田県出身の日本画家・福田豊四郎(1904～70)は、26歳の若さで帝展特選を受賞し、その後も多くの人々と関わりながら新しい日本画の創造に邁進した。本展では、県立近代美術館が所蔵する豊四郎の作品のほか、彼が師事した川端龍子や、豊四郎と同じグループで活躍した小松均など、ゆかりのある画家たちの作品も展示する。

[日程] 3月13日～4月18日

[会場] 秋田県立近代美術館

●山形県酒田市

土門拳記念館
〒998-0055 酒田市飯森山2-13 (飯森山公園内)
Tel. 0234-31-0028 茂木春香
<http://www.domonken-kinenkan.jp/>

古寺を訪ねて 東へ西へ

ライフワークとして古寺巡礼を行った土門拳。そのほとんどは京都・奈良を舞台としたものであったが、それ以外にも東へ西へと足を運び、古寺を撮影している。本展では、京都・奈良以外の古寺を土門の写真を通して紹介する。北は中尊寺から南は九州の白杵石仏まで、カラー・モノクロ合わせて76点の作品を展示。

[日程] 2月5日～4月11日

[会場] 土門拳記念館

関東

●茨城県水戸市

水戸市芸術振興財団
〒310-0063 水戸市五軒町1-6-8
Tel. 029-227-8111 竹久信
<https://www.arttowermito.or.jp/>

▼— 今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

3.11とアーティスト：10年目の想像

東日本大震災から10年が経過し、震災が「過去」となりつつある今、「想像力の喚起」という芸術の本質に改めて着目し、震災を語り継ごうとする作品群を紹介する。原発事故を受け、当時人々が交わした会話を再演した映像作品や、被災地に通い続けたアーティストが現地で見えた風景や聴いた言葉を、絵やテキスト、映像などで表現した作品を通して、10年の歳月における変化と不変を見つめる。

[日程] 2月20日～5月9日

[会場] 水戸芸術館現代美術ギャラリー

●群馬県太田市

太田市文化スポーツ振興財団
〒373-0026 太田市東本町16-30
Tel. 0276-55-3036 矢ヶ崎結花
<https://www.artmuseumlibraryota.jp/>

開館3周年記念展 「HOME/TOWN」

開館3周年を記念し、改めて風土を見つめ直す企画として、それぞれ太田市にゆかりをもつ詩人・清水房之丞、美術家・片山真理、写真家・吉江淳の三人展を実施する。太田市美術館・図書館は開館記念展「未来への狼火」でも太田市の由来が「豊かな田んぼ」を意味するという一説から、土・大地へと眼差しを向け、展示会のディレクションを行ってきた。本展でも、写真をメインに、改めて太田の風土を伝える。

[日程] 2月11日～5月30日

[会場] 太田市美術館・図書館

●さいたま市

埼玉県芸術文化振興財団
〒338-8506 さいたま市中央区上峰3-15-1
Tel. 048-858-5506 高井はるか
<https://www.saf.or.jp/arthat/>

ピアノ・エトワール・シリーズ アンコール! Vol.9

河村尚子 ピアノ・リサイタル

劇場厳選の新鋭ピアニストたちが意欲的なプログラムで競演を繰り広げる「ピアノ・エトワール・シリーズ」。今回は、過去の出演者の中から、お客様の「また聴きたい」というリクエストに応え、ドイツで教鞭をとりながら、実力派ピアニストとして日本のみならず世界中を魅了する河村尚子を招き、モーツァルトの『幻想曲』を冒頭に、シューベルトの『幻想ソナタ』などを披露する。

[日程] 4月17日

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場

●千葉県市川市

市川市文化振興財団
〒272-0023 市川市南八幡3-12-21 MC本八幡5F
Tel. 047-379-5111 泉水佳菜子
<https://www.tekona.net/>

新人演奏家コンクール受賞者 によるママも楽しい0歳からコンサート

乳幼児同伴でも気軽に楽しめるクラシックコンサート。ベビーカー置き場やおむつ替え・授乳スペースを用意し、45分間出入り自由。田中詩穂吏(オーボエ)、和田美祈(ヴィオラ)、泉碧衣(ピアノ)により、春の歌曲・童謡メドレーやチャイコフスキーのバレエ『くるみ割り人形』からの曲などを披露する。

[日程] 4月3日

[会場] 市川市生涯学習センター(メディアパーク市川)

●東京都江東区

東京都現代美術館
〒135-0022 江東区三好4-1-1(木場公園内)
Tel. 03-5245-1134 中島・工藤
<https://www.mot-art-museum.jp/>

ライゾマティクス_マルチプレックス

設立15周年を迎えるrhizomatics(ライゾマティクス)の美術館における初の大規模個展。リアルとバーチャルを融合した作品で、これまで多くのアーティストらとのコラボを実現し、さまざまなプロジェクトを通して技術と表現の新しい可能性を追求してきた。本展では、彼らが展開してきた領域横断的なクリエイションを展望するとともに、“現在”とクリティカルにシンクロする新作プロジェクトが展示される。
[日程] 3月20日～6月20日
[会場] 東京都現代美術館

●東京都府中市

府中市美術館
〒183-0001 府中市浅間町1-3
Tel. 042-336-3371 金子信久
<http://www.city.fuchu.tokyo.jp/art/index.html>

与謝蕪村

「ぎこちない」を芸術にした画家
与謝蕪村の頼りない線や素朴な描写にある“ぎこちなさ”に着目した、蕪村の画業を振り返る初めての展覧会。蕪村が表現した味わい深さやかわいらしさ、面白さを堪能できる約100点の作品を展示する。関連イベントとして展覧会講座と子ども向けイベント「ぶそん探検隊!」も開催。
[日程] 3月13日～5月9日
[会場] 府中市美術館

●横浜市

KAAT 神奈川芸術劇場
〒231-0023 横浜市中区山下町281
Tel. 045-633-6500 安田江
<https://www.kaat.jp/>

リーディング公演 『ポルノグラフィ』

2005年にロンドン市内の地下鉄とバスで起きた同時爆破事件に想を得たイギリスの劇作家サイモン・ステューヴンスの意欲作『ポルノグラフィ』を、リーディング形

式により上演。物語は活気づく都市で起こった事件の数日前と当日の様子を背景に、街の中で生活する人々に焦点を当てた7つのエピソードで構成。桐山知也がKAATプロデュース公演を初演出する。

[日程] 4月16日～18日

[会場] KAAT 神奈川芸術劇場

●神奈川県小田原市

おだわら文化事業実行委員会
〒250-8555 小田原市荻窪300
Tel. 0465-33-1706 松井真理子
<https://www.city.odawara.kanagawa.jp/field/lifelong/culture/event/2021328SDP.html>

スクランブル・ダンスプロジェクト Work In Progress

—ひかりのすあし へ向かって—
障がいのある人もない人も、互いにその人らしさを認め合いながら、共にダンスを創るプロジェクト。山海塾舞踏手の松岡大を講師に迎え、稽古を重ねてきたが、活動5年間の成果発表公演『ひかりのすあし』は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。今回は、ダンスの創作過程を見ることのできる公開ワークショップおよび発表会に内容を変更し実施する。

[日程] 3月27日、28日

[会場] 小田原市民会館

北陸・中部

●新潟市

新潟市美術館
〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9
Tel. 025-223-1622 児矢野あゆみ
<http://www.ncam.jp/>

コレクション展Ⅲ クンシランの記憶

これまで知られる機会があまりなかった新潟市出身の画家・佐善明の特集展示を開催する。当館の所蔵する佐善明の作品全12点を展示すると同時に、写真

家の牛腸茂雄、荒木経惟らによる写真や映像をはじめ、写真を基にして制作した「日記」シリーズで知られる版画家・野田哲也、画布に写真を映写して描くことによる独自のリアリズムを追求した画家・上田薫など、約50点の作品を展示する。

[日程]2020年12月24日～4月11日
[会場]新潟市美術館

●石川県金沢市

いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭実行委員会

〒920-0856 金沢市昭和町20-1
(石川県立音楽堂内)

Tel. 076-232-8113 戴恵理

<https://www.gargan.jp/>

いしかわ・金沢 風と緑の楽都音楽祭2021

金沢を中心に、北陸の各地で開催されるクラシック音楽の祭典。今年のテーマは「南欧の風」で、日本国内で活躍する演奏家やオーケストラが集結し、イタリアやスペイン、フランスにゆかりのある楽曲をお届けする。また伝統芸能とクラシック音楽のコラボレーション企画や、地元演奏家や子どもたちと共に楽しむ参加型プログラムなど、約140公演を予定している。

[日程]4月28日～5月5日

[会場]石川県立音楽堂、北國新聞赤羽ホール、金沢歌劇座ほか

●長野県小布施町

おぶせミュージアム・中島千波館
〒381-0201 上高井郡小布施町大字小布施595

Tel. 026-247-6111 綿貫薫

<https://www.town.obuse.nagano.jp/site/obusemuseum/>

美術館ノートpage.2

—収蔵品展—

おぶせミュージアム収蔵作品の中から「美術館ノート」第2弾として、中島千波、清之の作品をはじめ、金属造形作家の春山文典

の新収蔵作品、過去のShinPA展(東京藝術大学デザイン科出身&現役生による展覧会)の出品作家など美術館の秀作、また新収蔵作品を中心に紹介する。普段なかなか展示されない作品も展示予定。コロナ対策として、検温の実施と順路の案内など密にならないよう開催している。

[日程]1月22日～4月20日

[会場]おぶせミュージアム・中島千波館

●岐阜県岐阜市

岐阜県文化創造課

〒500-8570 岐阜市藪田南2-1-1

Tel. 058-272-8245 松田陽介

<https://www.pref.gifu.lg.jp/page/24014.html>

清流の国ぎふ

2020地歌舞伎勢揃い公演

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から2020年3月以降中断していた公演が再開。岐阜県内の地歌舞伎保存団体が集結し、2021年3月から8月まで順次演目を披露する。今回の出演は中津川市の東濃歌舞伎中津川保存会と常盤座歌舞伎保存会。岐阜県を代表する伝統芸能「地歌舞伎」を堪能することができる。

[日程]4月18日

[会場]ぎふ清流文化プラザ



東濃歌舞伎中津川保存会

●静岡県

SPAC-静岡県舞台芸術センター
〒422-8019 静岡市駿河区東静岡2-3-1

Tel. 054-203-5730 内田稔子

<https://festival-shizuoka.jp>

ふじのくにせかい演劇祭2021

旬の舞台芸術を静岡の地で体験できる演劇祭。今年は全演目を野外で上演する。注目は、劇作家・唐十郎の一幕劇を、SPAC芸術総監督・宮城聡の演出でお届けする新作『おちよこの傘持つメリー・ポピンズ』、ほか「東京芸術祭2018」で池袋の雑踏の中上演され反響を呼んだ『野外劇 三文オペラ』が、静岡版として登場する。SPACの代表作『アンティゴネ』の凱旋公演や、街中で演劇やダンスを楽しめる「ストレンジシード静岡」も同時開催(5月2日～5日)。

[日程]4月24日～5月5日

[会場]舞台芸術公園、駿府城公園

●名古屋市

昭和文化小劇場

〒466-0831 名古屋市中区和花見通1-41-2

Tel. 052-751-6056 川田祐子

<https://www.bunka758.or.jp/>

昭和文化的劇場子どもミュージカル劇団「show-Wa!」第4回公演 オリジナルミュージカル『マイ・ストーリー～物語への旅～』

2016年の昭和文化的劇場開館とともに創設された子どもミュージカル劇団「show-Wa!」は、創造力や自己肯定感を高めコミュニケーション能力を身に付けるプログラムの開発と普及活動に取り組んでいる。今回の第4回公演は、初年度より参加している1期生の卒業公演。小学6年生から高校1年生までの17人が、劇場アドバイザー3名の指導の下で演劇・歌・ダンスの練習を重ね、舞台上に臨む。

[日程]3月28日

[会場]昭和文化的劇場

●愛知県南知多町

南知多町教育委員会社会教育課
〒470-3412 知多郡南知多町

大字豊浜字須佐ヶ丘5

Tel. 0569-65-2880 保母公次

<https://www.town.minamichita.lg.jp/>

南知多町 町制60周年記念コンサート

南知多町が町制60周年を迎える記念すべき日に、東京フィルハーモニー交響楽団の奏者などが出演するコンサートを開催。「南知多町おめでとうプログラム」として、「華麗な」をキーワードにした曲や南知多町のイメージ曲『南知多ハーモニー』などを演奏するほか、町内の重要文化財「旧内田家住宅」のイメージ曲である『赤とんぼ』を演奏に合わせ参加者全員で合唱する催しも実施予定。

[日程]6月1日

[会場]南知多町総合体育館

近畿

●京都市

京都芸術センター

〒604-8156 京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2

Tel. 075-213-1000 水野慎子

<https://www.kac.or.jp/>

黒田大スケ

「未然のライシテ、どげざの目線」

京都芸術センターがアーティストとの連携を強化して創作・発表の幅を広げることを目的とする共同事業「Co-program」の展覧会。今年度は美術家の黒田大スケと協働し、京都市内にある有名な公共彫刻を起点に、彫刻が帯びる霊性、言い換えれば彫刻が人格をもった人間であるかのように感じる感覚を、あらゆる実験的芸術的アプローチによって創造的に視覚化し、彫刻のもつ意味や背景をとらえ直す試みを展示する。

[日程]2月20日～4月4日

[会場]京都芸術センター

●堺市

堺 アルフォンス・ミュシャ館(堺市立文化館)

▼今月の情報

アーツセンター、アーツクルーから寄せられた情報を毎月掲載します

〒590-0014 堺市堺区田出井町1-2-200 ベルマージュ堺式番館
Tel. 072-222-7227 高原茉莉奈
<https://mucha.sakai-bunshin.com/>

カランドリエ ミュシャと12の月

19世紀末のパリで活躍したアルフォンス・ミュシャは、広告デザイナーとしての仕事のうち特にポスターで有名だが、実はカレンダーも数多く制作している。本展では当時の人々の暮らしを彩ったアール・ヌーヴォーのカレンダーの数々を習作とともに一挙に公開。また、ミュシャが生きた時代の大阪・堺にも目を向け、明治期の堺の商店が配布していた暦と引札(広告チラシ)も紹介する。

[日程] 3月27日～7月25日

[会場] 堺 アルフォンス・ミュシャ館(堺市立文化館)



アルフォンス・ミュシャ《黄道十二宮》(1896年/リトグラフ、紙/堺 アルフォンス・ミュシャ館(堺市)蔵)

●神戸市

横尾忠則現代美術館
〒657-0837 神戸市灘区原田通3-8-30

Tel. 078-855-5602 平林恵
<http://www.ytmoca.jp/index.html>

Curators in Panic～

横尾忠則展 学芸員危機一髪

3名の学芸員が過去に企画した展覧会を振り返り、収蔵品の中からそれぞれの“推し作品”を紹介する展覧会。日頃の調査の中で発見したこと、展覧会にまつわるエピソード、ただただ好きな作品などを紹介する。開幕と同時にコロナ禍に見舞われた「兵

庫県立横尾救急病院展」、その最中に企画された「横尾忠則の緊急事態宣言」展に続き、混乱の中での美術館活動を映し出す試み。

[日程] 3月27日～8月22日

[会場] 横尾忠則現代美術館

中国・四国

●島根県益田市

島根県立石見美術館
〒698-0022 益田市有明町5-15
Tel. 0856-31-1860 廣田理紗
<http://www.grandtoit.jp/museum/>

企画展島根会場特別展示

「コズミックワンダーと工芸ばんくす舎 ノノ かみと布の原郷」

企画展「ファッション イン ジャパン 1945-2020 一流行と社会」の島根会場特別展示として、現代美術作家の前田征紀が主宰する「コズミックワンダー」と工芸デザイナー・石井すみ子とのアートユニット「工芸ばんくす舎」を招聘し、さまざまな地域に残された「自然布」から、人と自然とのこれからの関係について展望する。国内を旅するなかで触れた自然布を元に撮り下ろした映像や写真のほか、島根で盛んだった藤布(東部)、紙布(西部)などの自然布を民家や保存会などから集め、美術館では珍しい織機などと併せて紹介する。

[日程] 3月20日～5月16日

[会場] 島根県立石見美術館

●岡山県高梁市

高梁市成羽美術館
〒716-0111 高梁市成羽町下原1068-3

Tel. 0866-42-4455 澤原一志

<https://nariwa-museum.or.jp/>

美の世界を拓く 千住博

1995年、第46回ヴェネツィア・ビエンナーレで東洋人初の名誉

賞を受賞し、常に日本画の新しい領域を開拓するなど、国内外で目覚ましい活躍を続ける千住の初期作品から近作までを展覧する。

[日程] 4月3日～7月24日

[会場] 高梁市成羽美術館

●広島市

広島県立美術館
〒730-0014 広島市中区上鞆町2-22

Tel. 082-221-6246 神内有理

<https://www.hpam.jp/museum/>

冬の所蔵作品展

新収蔵作品を中心に

広島にゆかりの深い彫刻家の作品群や文学と密接に影響関係が見られる西洋美術の作品、美術館の裏側である作品の修復保存の一面を紹介するシリーズの第3弾。昨年度に寄贈・寄託された日本洋画と日本画、工芸作品のお披露目や、広島で育まれた近代から現代に至る多分野の工芸など、5つのテーマでコレクションの魅力を引き出す。

[日程] 1月2日～4月25日

[会場] 広島県立美術館

●山口県山口市

山口情報芸術センター[YCAM]

〒753-0075 山口市中国町7-7

Tel. 083-901-2222 吉崎和彦

<https://www.ycam.jp/>

ホー・ツーニエン ヴォイス・オブ・ヴォイドー虚無の声

シンガポールを拠点に活躍するアーティスト、ホー・ツーニエンによる新作インスタレーションを発表する展覧会。1930年代から40年代の日本の思想界で大きな影響力をもった「京都学派」をテーマに、YCAMとのコラボレーションのもと、VR(ヴァーチャル・リアリティ)とアニメーションによる新作の映像インスタレーションを発表する。

[日程] 4月3日～7月4日

[会場] 山口情報芸術センター[YCAM]

●香川県高松市

サンポートホール高松
〒760-0019 高松市サンポート2-1 高松シンボルタワー・ホール棟

Tel. 087-825-5010 堀有紀子

<https://www.sunport-hall.jp/>

第9回サンポートホール高松 デビューリサイタル

香川県出身または在住の音楽家で、“リサイタルデビュー”前の次代を担う音楽家を公募し、選考会を経て決まった4名の音楽家がサンポートホール高松でデビューを飾る。3月に続いて今回は、大久保かおり(クラリネット)と多田羅愛(ピアノ)が出演する。

[日程] 4月10日

[会場] サンポートホール高松

九州・沖縄

●北九州市

北九州市立美術館
〒804-0024 北九州市戸畑区西鞆ヶ谷町21-1

Tel. 093-882-7777 神谷孝次

<https://www.kmma.jp/honkan/>

コレクション展Ⅷ

特集 野見山暁治

福岡県出身の画家・野見山暁治の百寿を記念して開催する展覧会。1950年代から2000年代の油彩、さらに90年代の水墨画のシリーズを展示し、長きにわたる野見山の画業を、作家所蔵の作品に当館のコレクションを交えて振り返る。また、野見山と交流があった美術家たちの作品も紹介する。

[日程] 2月20日～4月11日

[会場] 北九州市立美術館

●福岡県筑後市

サザンクス筑後
〒833-0047 筑後市大字若菜1104

Tel. 0942-54-1200 久保田力
<https://www.sathankusu-chikugo.or.jp>

こどものためのえんげきひろば 発表会「時。」

演劇活動を通して、地域の子
もたちが日常をもっと生き生き
と過ごすための場所として今年
で22年目を迎える「こどものた
めのえんげきひろば」。昨年3月
の公演は残念ながら中止となっ
たが、今年度は、小学4年生か
ら高校3年生までの17人が休校
期間中もオンラインを活用しなが
ら活動を続け、活動のなかで集
まった子どもたちの声や言葉から

「時」をテーマに書き下ろしたオ
リジナルの2作品を上演する。

[日程] 3月28日
[会場] サザンクス筑後

●熊本市

市民会館シアーズホーム夢ホール
(熊本市民会館)
〒860-0805 熊本市中央区桜
町1-3

Tel. 096-355-5235 光永綾音
<http://stage1kmj.jp>

熊本地震発生から5年 「私たちの未来」

2016年4月の熊本地震から5年。
ふるさと熊本の明るい未来に思
いを馳せた青少年の芸術作品を
元にした舞台作品を上演。心安
らぐ音楽に乗せて、熊本県出身
の女優・宮崎美子が作品を朗読
する。出演は東京藝術大学の山
崎貴子(ヴァイオリン)、くまもと
全国邦楽コンクール最優秀賞受
賞者の田辺頌山(尺八)、今野玲
央(箏)ほか、全国箏曲コンクール
賢順賞受賞者、NHK熊本児童
合唱団。構成・演出は日本伝統
文化振興財団理事長の藤本草。

[日程] 4月11日
[会場] 市民会館シアーズホーム
夢ホール(熊本市民会館)

●鹿児島県奄美市

田中一村記念美術館

〒894-0504 奄美市笠利町節
田1834

Tel. 0997-55-2635 有川幸輝
<http://amamipark.com/isson/>

田中一村「春の常設展」

日本画家・田中一村の東京・千
葉・奄美時代の作品を約80点
展示。幼少期から青年期にかけ
て中国の文人画家や南画家の
影響を受けた東京時代。農業や
手仕事をしながら多彩な筆法を
取り込んで新しい日本画の表現
を模索した千葉時代。亜熱帯の
豊かな自然をモチーフに、斬新
な構図や色彩で新たな日本画
を生み出した奄美時代。各時代
の代表作を含む作品群を巡り
ながら、創作の軌跡と一村芸術
の真髄を楽しめる。

[日程] 3月18日～6月15日
[会場] 田中一村記念美術館

オンラインを活用 した取り組み

新型コロナウイルス感染症の影
響により、各地で広がるオンライ
ンを活用した取り組みをご紹介します。
※実施施設の北から順に掲載

●東京都大田区

東京・大田区発信 人間国宝ド キュメンタリー つなぐ～伝統 を受け継ぐ至宝たち～

2017年から毎年3月に日本の伝
統文化を体験できる「おおた和
の祭典」を行っていたが、新型
コロナウイルス感染症拡大防止
のため、2020年、21年は開催を
中止。しかし、大田区民への和
文化の周知と伝統文化を通した
“つながり”を新しい形で提供す
るため、大田区在住の3名の人
間国宝・竹本葵太夫(歌舞伎音
楽竹本太夫)、本阿彌光洲(刀
剣研磨)、米川文子(地歌・箏曲
演奏家)に焦点を当てた映像作

品を制作。日本語版だけでなく、
英語版も公開している。

[公開期間] 3月7日～

[URL]<https://www.youtube.com/c/otabunkaart/>

[問い合わせ] 大田区文化振興協
会 Tel. 03-3750-1611

●東京都渋谷区

開館10周年記念「さくらホール コンサート」YouTube配信

渋谷区文化総合センター大和
田では、開館10周年を記念し
た「さくらホールコンサート」の
YouTube配信を開始。動画で
は、この日のために結成された
大和田祝祭管弦楽団のメンバー
や、指揮の米田覚士、ピアニス
トの實川風がさくらホールでの
思い出やコロナ禍に思うことを
語り、コンサートプログラムから
はガーシュウインの『ラプソディ
・イン・ブルー』が収録され、併
せて楽しむことができる。

[公開期間] 1月15日～

[URL]<https://youtu.be/ZWhNZbrEEic>

[問い合わせ] 渋谷区文化総合セ
ンター大和田 Tel. 03-3464-3251



さくらホールコンサートの様子

●愛媛県伊予市

IYO夢みらい館YouTubeチャ ネル

いよし市民総合文化祭&ふるさ
とフェスティバルの中止に伴い、
市民の発表や日頃の文化活動
の様子を映像で配信する「みん
なの文化祭」を企画したことをき
っかけに公式YouTubeを立ち上
げ。以降、休校が続く子どもた
ちに向けた読み聞かせや、地域の

伝統芸能「扶桑太鼓」の公演な
どを配信。気軽に見てもらえるよ
う、短い動画を作成している。

[URL]https://www.youtube.com/channel/UCLluZpZ_1ugXfnmSmSTPZA

[問い合わせ] 伊予市文化交流セ
ンター IYO夢みらい館

Tel. 089-909-3266

●福岡県久留米市

久留米シティプラザWEBコン テンツ

開館当初から取り組む、地域と
演劇を繋げるワークショップ事
業「くるめと安徳天皇伝説」を今
年度はZoomを用いて実施。こ
れまでの記録をウェブサイトや
公式YouTubeにて配信してい
る。また、キッズプログラムのウ
ェブコンテンツを展開するなど、
子どもの感性を育てることを目
的にオンラインを活用した事業
を行っている。

[URL]<https://kurumecityplaza.jp/events/2842/>

[問い合わせ] 久留米シティプラザ
Tel. 0942-36-3000

●熊本県熊本市

アートラーニングin新しい生活 様式

新型コロナウイルス感染症拡大
の影響で、発表や教育の場を
失った文化芸術団体・個人に対
し、熊本県が企画した「アート
ラーニングin新しい生活様式」。
熊本県内の15の文化芸術団体・
個人のレクチャー動画を制作
し、YouTubeにて配信。家にい
ながら、日本舞踊、ダンス、日
本画などの多彩な文化・芸術を
学ぶことができる。

[公開期間] 2020年12月2日～

[URL]<https://www.youtube.com/channel/UCfeyJUVUxPjvDt6a-atz4g>

[問い合わせ] 熊本県立劇場
Tel. 096-363-2234

▼今月の情報(アーツセンター編)

新たにオープンした公立のアーツセンターを紹介します

アーツセンター情報

●京都市

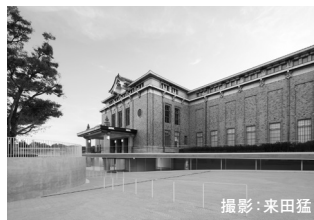
京都市京セラ美術館

〒606-8344 京都市左京区岡崎円勝寺町124

Tel. 075-771-4334

<https://kyotocity-kyocera.museum/>

◎2020年5月26日リニューアルオープン



撮影：来田猛

昭和8(1933)年に創建された現存する日本最古の公立美術館建築である京都市美術館。約3年にわたる工事休館を経て、2020年5月に通称を「京都市京セラ美術館」として新たに開館した。今回のリニューアルでは、費用負担を抑えるためにネーミングライツ制度を導入、京セラ株式会社による支援を得る。貴重な歴史的建築は保存しつつ、展示・収蔵スペースの不足など機能面における課題の解消や、岡崎地域の活性化を担い、人々が行き交う施設となるための整備が進められた。

また、今後のコレクションの充実を図るためメインエントランスを地下1階に移し、大規模なスペースを要する現代美術など多彩な展示が可能となる「東山キューブ」の新設や、収蔵庫の増床など、美術館としての機能を強化するとともに、より開かれた施設として生まれ変わっている。[オープニング事業]開館記念展「京都の美術 250年の夢」[杉本博司 瑠璃の浄土]

[施設概要]東山キューブ(約1,000m²)、南回廊(約1,000m²)、ザ・トライアングル(約67m²)ほか
[設置・管理・運営者]京都市
[基本設計者]青木淳・西澤徹夫設計共同体

●兵庫県宝塚市

宝塚市立文化芸術センター

〒665-0844 宝塚市武庫川町7-64

Tel. 0797-62-6800

<https://takarazuka-arts-center.jp>

◎2020年6月1日オープン



宝塚ファミリーランドの面影を残す旧公園跡に、文化・芸術に親しむセンターエリアと、自然にふれる庭園エリアから成る複合施設を整備。宝塚文化創造館や手塚治虫記念館などの文化施設が隣接する立地を生かし、市中心部の文化ゾーンを形成する。2階のメインギャラリー、1階のサブギャラリー、アトリエのほか、天井が高く大型オブジェの展示などを行えるキューブホール、文化・芸術や植物、宝塚市に関する図書を紹介するライブラリーなどを配置。また、庭園エリアでは、宝塚植物園時代の植栽や大池、石造りの欄干などの風景を継承し、四季折々の植物とともに町の記憶にふれることができる。庭園ではイベントの実施も可能で、幅広い世代がアートと自然を気軽に楽しみ、交流できる場を目指す。

[オープニング事業]開館記念展「宝塚の祝祭I-Great Artists in Takarazuka」

[施設概要]メインギャラリー(545m²)、キューブホール(176m²)、おおよね広場、メインガーデンほか
[設置者]宝塚市

[管理・運営者]宝塚みらい創造ファクトリー

[設計者](株)東畑建築事務所・(株)地域計画建築研究所・E-DESIGN設計共同体

●長崎県雲仙市

愛の夢未来センター

〒854-0302 雲仙市愛野町乙526-1

Tel. 0957-36-0616

http://www.city.unzen.nagasaki.jp/info/prev.asp?fol_id=28177

◎2019年11月4日オープン



総合支所、公民館、図書室、文化施設、防災の機能を兼ね備えた複合施設。整備計画策定の参考とするための市民ワークショップを複数回重ねるなど、市民と協同して完成に至った。1階は愛野総合支所、教育委員会愛野駐在、愛野図書室。図書室の蔵書数は旧愛野図書室の約4倍の4万3千冊からスタートしており、親子で読み聞かせのできる「おはなしの部屋」や学習室も設置されている。

2階のホールにはリハーサル室、研修室、調理室、和室が併設されるなど付帯施設も充実。小さい子ども連れでもイベントの観覧ができる親子席も備えられている。またリハーサル室は防音機能を備え、イベント出演者だけでなく、市民も楽器やダンス、コーラスなどの練習に使用が可能となっている。

今後も市民サービスの向上や文化芸術活動・生涯学習の推進を図り、交流と賑わいを創出するまちづくりの拠点となることが期待されている。

[オープニング事業]雲仙太鼓まつり

[施設概要]ホール(598席)、リハーサル室、研修室3室ほか
[設置・管理・運営者]雲仙市
[設計者](株)山下設計

●データの見方

情報は所在地の北から順に掲載しています。●で表示してあるのはアーツセンターの所在地です。以下名称、住所、電話番号、公式サイトURLを記載しています。また、基礎データとして、設置者、運営者、ホール席数など施設概要を紹介しています。

●情報提供のお願い

地域創造では、地域の芸術環境づくりを積極的に推進するアーツセンター(ホール、美術館などの施設のほか、ソフトの運営主体も含みます)の情報を収集しています。特に、新規の計画やオープンなどのトピックスについては、この情報欄に掲載していく予定です。このページに掲載を希望する情報がございましたら、情報担当までご連絡ください。

●情報提供先

地域創造レター担当
Fax. 03-5573-4060
Tel. 03-5573-4066
letter@jafra.or.jp

▼— 今月のレポート

財団の支援事業や地域の創造活動に参考になる催しを取り上げてレポートします

岩手県宮古市

宮古市民文化会館
プロデュース公演

『岬のマヨイガ』



『岬のマヨイガ』 撮影：松本伸

● 宮古市民文化会館プロデュース公演『岬のマヨイガ』

【制作・企画製作】NPO法人いわてアートサポートセンター・宮古市民文化会館

【原作】柏葉幸子

【脚本・演出】詩森ろば

【人形デザイン・操演指導】沢則行

【音楽・演奏】鈴木光介

【出演】竹下景子、栗田桃子、井上向日葵、坂元貞美、嶋村太一、森下亮、藤尾勲太郎ほか

【会場】宮古市民文化会館(2021年2月6日)、盛岡劇場(2月9日)、二戸市民文化会館(2月11日)、久慈市民文化会館(2月13日)、東京芸術劇場(3月17日～21日)

● 柏葉幸子(原作者)コメント

2011年の震災直後、東京の出版社の方などから「岩手の子どもは元気？ 大丈夫？」と聞かれる機会が多く、「私は被災地の作家なんだ」と自覚しました。そんな経緯もあり、「さまざまな思いを抱えた子どもがいることを発信しなくてはいけない」と背中を押されるように書いたのが、この作品です。

この本は地元新聞(日報ジュニアウィークリー)の連載をまとめたものですが、開始は2014年。震災から3年経ってはいましたが、時期尚早なのでは……という心配がずっとありました。沿岸に住む子どもたちから「少女に共感した」「つら

いのは自分だけではないと思った」という感想が届いたことで、立ち直るまでにはまだ時間がかかることを実感しました。本を読んだ子どもが「面白かった!」と言ってくれるときに、本当の意味での復興なのだと思います。

震災のことを取り上げた本は短編も含め数作書いてきましたが、ある物語に登場させた、故郷を離れた9歳の男の子のことがずっと気になっていました。先日やっとその子が19歳に成長した姿を描くことができました。ここに至るまで何年もかかりましたが、もう少し時間が経てば、また違う物語が書けるようになるかもしれません。

東日本大震災から10年目となる今年、震災後の岩手県沿岸を舞台にした芝居『岬のマヨイガ』が岩手(宮古・盛岡・二戸・久慈)と東京で上演された。原作は盛岡在住の作家・柏葉幸子が、震災と遠野物語をモチーフに描いた児童文学。主催は宮古市、宮古市教育委員会、NPO法人いわてアートサポートセンターなどで、現地で滞在創作し、東北から被災地の再生の物語を発信する企画だ。2月6日、宮古市民文化会館で行われた岩手ツアーの初日取材した。



舞台は、岩手県沿岸のまち。両親を失い、親戚の家に引き取られるために東北へやってきた少女ひよりと、夫の暴力に耐えかねて東京から逃れてきた結が、震災の日に居合わせたことから物語は始まる。行き場所を失った二人に手を差し伸べたのは、「人でないもの」と話すことができる不思議な老女。3人は岬に立つ古民家マヨイガで、寄り添うように暮らし始める——。生の楽器演奏による軽やかな場面展開、国際的に活躍する人形劇師・沢則行がデザインし、俳優たちと共に操るカップパや白狐といった不思議な生き物たちとの交流、傷つく者を迎える「マヨイガ」という居場所を通じて伝わる再生の物語に、客席からはすすり泣きも聞こえた。

脚本・演出は岩手出身の詩森ろばで、岩手を題材にした作品を滞在創作したのは、宮古市民文化会館開館40周年記念事業『残花—1945 さら隊 園井恵子—』(2016年)に続いて2度目だ。

「1月20日に岩手での稽古を始めました。現地の空気を感じながらその土地の話をづくり、

地元でツアーをすることで理屈ではない強度が生まれる。これが滞在創作の強みだと思っています。せっかく滞在中なのにコロナの影響で地元の方々と交流ができなかったのは残念でしたが、出演者らで(津波で大きな被害を受けた)田老地区の震災遺構「たろう観光ホテル」に足を運び、被災者のガイドから当時の話を伺いました。語り部の「この悲しみが伝わるだろうか」「それでも伝えなくては」という気持ちがせめぎ合う様子を役者たちに見てもらえて良かったと思っています」

妖怪が活躍するなど舞台化が難しいファンタジー作品を舞台化するにあたり、詩森が白羽の矢を立てたのが人形劇師の沢だ。沢は子どもたちに人形劇を見せるなど被災地活動も行ってきた。

「この作品は、震災という悲しい出来事から新しいコミュニティが生まれる、人間にはマイナスをプラスに変える力があるということを伝える物語です。骨や化石から着想した人形デザインは、近くで見ると穴だらけですが、中には花が咲いている。命が蘇り、再び動き回るようなイメージを重ねました」

今回は座組全員がPCR検査を受けて当初の予定よりも早く現地入りするなど、滞在期間を延ばして創作に取り組んだ。盛岡に拠点を置くNPO法人が指定管理者となっている宮古市民文化会館は東日本大震災の津波被害により閉館し、2014年に再開。事業担当の坂田雄平さんにコロナ禍での滞在創作などについて聞いた。「再開してからは、市民の繋がりを取り戻すコミュニティシアターとしての役割を軸に、郷土芸能公演、まちづくりに繋がるアートプロジェクトを行ってきました。感染者数が多い都市よりも地方のほうがリスクが低い利点もありますし、今年度はWi-Fiやオンライン環境を整備、来年度から滞在創作を軸とした事業に力を入れていきたいと考えています」

物語の最後、喋ることができなかった少女は言葉を取り戻す。震災から10年、さらなる復興へ歩みを進めようと格闘する人々の姿が、作品と会館の取り組みを通して伝わってきた。

(川添史子)